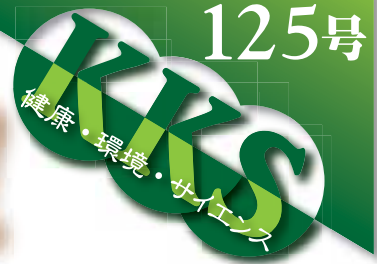
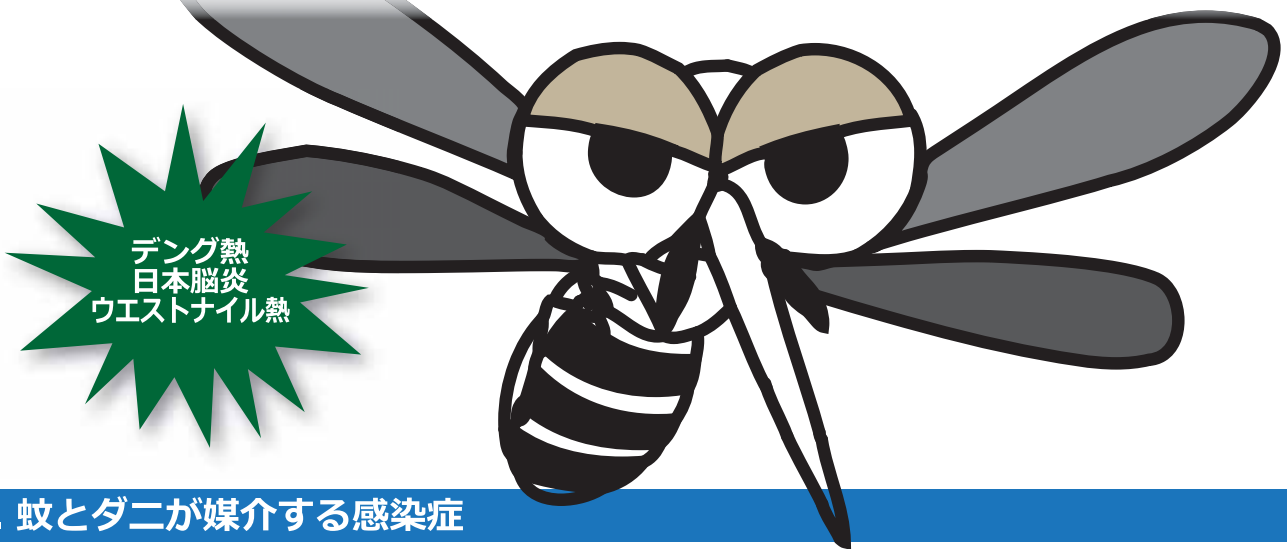




# 蚊とダニにご注意を!



蚊やダニなどの虫が媒介する感染症により、世界で毎年100万人以上の方が亡くなっています。最近、日本でもデング熱と重症熱性血小板減少症候群(SFTS)が流行しています。日本人が国外でマラリアなどの病気に感染するケースも少なくありません。改めて虫が媒介する感染症について予備知識をもち、注意する必要があります。



## 1. 蚊とダニが媒介する感染症

昨年、東京都を中心に国内で流行したデング熱は蚊が媒介する感染症です。デング熱患者の血液を吸血した蚊(ヒトスジシマカなど)の体内でデングウイルスは増殖します。その蚊が別の人を吸血する時、蚊の持つウイルスが人の体内に入り感染が起こります。発症すると、発熱、頭痛、眼窩痛、関節痛などが生じます。稀にデング出血熱を起こし重症化することがあります。この他に下表のような感染症が蚊によって媒介されます。チクングニア熱もアジアとアフリカの熱帯地域で流行しており、日本国内へ侵入するリスクが高い病気です。日本脳炎は現在では患者数は少なくなりましたが、死亡率が高い感染症です。ウエストナイル熱はア

フリカの西ナイル地方を原産とする感染症で、まだ日本に侵入していませんが、世界中に広がりつつあり、注意が必要です。マラリアと黄熱は現在の日本では流行していませんが、熱帯地方で流行しており、海外旅行へ行くときには気をつけるべき病気です。

一方、ダニによる感染症としては2013年に初めて日本で患者が報告された重症熱性血小板減少症候群(SFTS)があります。発熱、嘔吐、下痢などの症状が現れ、血小板数の減少が認められます。他にダニが媒介する感染症には、日本紅斑熱、ライム病、ツツガムシ病があります。これらのダニによる感染症では刺し口が残ることが多く、診断の際に役に立ちます。

### 蚊とダニがもたらす感染症

疾病名	媒介者	増幅動物	主な症状	流行地	病原体
<b>蚊が媒介する感染症</b>					
デング熱	ヒトスジシマカ, ネットアイシマカ	ヒト	発熱, 頭痛, 眼窩痛など	アフリカ, 南アジア, 東南アジア, 南米, 日本	ウイルス
チクングニア熱	ヒトスジシマカ, ネットアイシマカ	ヒト	発熱, 関節痛, 発疹など	アジア, アフリカの熱帯・亜熱帯地域	ウイルス
日本脳炎	コガタアカイエカ	豚	発熱, 頭痛など	東南アジア, 南アジア, 日本	ウイルス
黄熱	ネットアイシマカなど	サル, 人	発熱, 嘔吐, 筋肉痛など	アフリカ, 南米	ウイルス
ウエストナイル熱	アカイエカ, ヒトスジシマカなど	鳥	発熱, 頭痛, 筋肉痛など	アフリカ, ヨーロッパ, 中東, 中央・西アジア, アメリカ	ウイルス
マラリア	ハマダラカ		発熱, 悪寒など	熱帯地域	原虫
<b>ダニが媒介する感染症</b>					
重症熱性血小板減少症候群(SFTS)	マダニ	シカ, イノシシ	発熱, 下痢, 嘔吐など	中国, 日本	ウイルス
日本紅斑熱	マダニ	シカ, ネズミ	発熱, 頭痛, 発疹など	日本(関東以西)	リケッチア
ライム病	マダニ	シカ, ネズミ	発熱, 頭痛, 発疹など	北米, ヨーロッパ, 日本	細菌
ツツガムシ病	ツツガムシ	ネズミ	発熱, 頭痛, 発疹など	日本全土	リケッチア